

応募者名	小野市成人式実行委員会、小野市、小野市教育委員会
自治体担当部課室名	小野市 教育委員会 いざいぎ社会創造課
担当者名	田中孝幸 岡嶋晃司
連絡先 TEL/FAX	兵庫県小野市王子町 806-1 TEL.0794-63-2445 FAX.0794-63-1842
成人式の主催者	小野市成人式実行委員会
テーマとテーマの視点	メインテーマ：友 ♪ 感動 新成人全員で感動的な成人式を創りあげるといふ思い（友感動）と、新成人が持つ未来への限りない可能性（You can do）を一つの言葉に込めた。
開催日	平成21年1月12日（月）午前9時30分～午前11時30分
開催会場	小野市民会館 大ホール（第3部はコミュニティセンター及び商工会館）
新成人への出席案内数	全数 589名（男328名、女261名）
新成人の出席者数	全数 466名（男260名、女206名） 参加率 79%
主催者側の出席者と人数	成人式実行委員 16名（100%）
来賓者と人数	11名/12名
式典とアトラクションの内容	オープニング … 新成人による楽器の生演奏 第1部：相 ♪ 感動 … 市長と新成人代表によるセレモニー&トーク 回収したペットボトルキャップの披露 第2部：初 ♪ 感動 … お祝いビデオレター、新成人が制作したオリジナルビデオの上映、参加者全員での合唱 第3部：勢 ♪ 感動 … 中学校区ごとの同窓会
記念品等	小学校区ごとの記念写真 懐かしの給食メニュー（カミカミ豆等）

テーマ・開催状況及び成果の自己評価

●2009 成人式実行委員会の主な取り組み

- ・実行委員会（15回）、各打合せ（3回）、リハーサル（3回）等の開催
- ・ビデオレター及びオリジナルビデオの企画、製作 ※今年度は業者の手を借りず、全て新成人が作りました。
- ・成人式の企画、準備、進行全般（独創的かつユニークな企画の立案・実施、シナリオ作成、出演者の手配等）
- ・ペットボトルキャップの回収活動

※会議には、協議事項に依りて、実行委員以外の新成人もどんどん参加しました。（新成人全員で創る成人式）
また、実行委員は、自主的にお互いの家等で打合せや練習、作業を行っていました。（実行委員の自立）

●2009 成人式当日の内容～友 ♪ 感動をテーマに～

【今年度も定刻どおりにスタート！】

成人式の成否の1つは、開始予定時刻までに新成人が入場するかどうかです。

式典の受付や入場喚起を新成人自らがいき、時間までに入場するよう懸命に仲間へ呼びかけました。その結果、開始5分前には全ての新成人が会場に入り、予定どおりの時刻に開始することができました。

【ファンファーレ】

開始直後は会場がざわつき、舞台に集中してくれません。そこで、幕が上がると同時にトランペットを演奏し、舞台に注意を引きつける演出を行いました。トランペットは実行委員が母校から借用し、1ヶ月間猛練習しました。演奏者7名のうち、5名が初心者でしたが、練習の成果を存分に発揮しました。

【オープニング】～情熱大陸 in 小野～

新成人がピアノやマリンバ等で“情熱大陸”を演奏し、成人式を自ら祝いました。

演奏者は、学業等で忙しい合間を縫って、自宅に集まって練習に励み、すばらしい演奏を披露しました。

【第1部：相 感動】～セレモニー&トーク～

- ①コーディネーター役の新成人の進行のもと、「今、わたしにできること (I can do)」をテーマに、個性あふれる4人の新成人代表がパネリストとして自分の想いを熱く語りました。
- ②北京オリンピック5000mに出場した小林祐梨子さんもパネリストの一人として出演しました。出演は実行委員が本人に直接交渉し、ふるさとで成人式をぜひ迎えたいとの本人の強い希望で実現しました。
- ③小野高校放送部出身の新成人を中心に、シナリオや演出方法は全て新成人が考えました。会場も参加できるように、コーディネーターから参加者全員への質問や会場インタビュー等を行い、舞台と会場が一体となって進行しました。
- ④「社会人としての自覚」、「将来の夢」、「支えてくれる人への感謝」等が語られ、新成人として新しい一歩を踏み出す思いを会場全体で共有しました。
- ⑤最後に、回収したペットボトルのキャップ11万個を舞台上で披露し、協力してくれた方々へ感謝の気持ちを伝えました。

【第2部：初 感動】～ビデオレター、オリジナルビデオの上映～

- ①恩師や地域住民からのお祝いビデオレターと、実行委員制作のオリジナルビデオを上映しました。
- ②今年度は、出演・撮影から編集・ナレーションまで、全てを新成人が行い、そのクオリティの高さで大好評でした。
- ③ビデオレターでは収録した地域住民のメッセージが消えてしまい、実行委員が事情を説明して撮り直しました。トラブルがおきても、実行委員自身がきちんとそれに対処していくことで、人として成長していったと思います。(実行委員形式=ひとづくりの場)

【Best Friend】～会場が一体となった大合唱～

- ①式典の最後は、全員がペンライトを振りながら合唱し、会場が一体となって終了します。
- ②ペンライトについては、投げる、叩く等の行為が心配されました。そこで、実行委員会で協議を重ねた結果、指示があるまでペンライトを開封しないよう、開始前の館内放送で呼びかけ、さらに、開始後に実行委員が舞台から新成人に協力を呼びかけることにしました。また、開封時には、実行委員が舞台上で見本を見せ、ペンライトを使えない人がでないよう配慮しました。
- ③合唱についても実行委員会で協議を重ね、次のことを行いました。
 - ・歌う曲は、合唱コンクールで新成人全員が知っているkiroroの“Best Friend”を選びました
 - ・巨大スクリーンにふるさとの名所と一緒に歌詞を上映し、歌いやすさに配慮しました
 - ・実行委員が舞台上で率先して歌うようにし、会議の終了後に歌の練習を行いました。
- ④その結果、心配していた行為をする新成人は一人もおらず、全員が実行委員の指示に従ってくれました。ペンライトの光の中、会場が一体となって合唱する感動的なエンディングとなりました。
- ⑤荒れる成人式が話題になる中、行政と新成人との信頼関係があったからこそ、できた企画だと思います。

【第3部：剪 感動】～恩師を囲む同窓の集い～

- ①会場を移して、中学校ごとの校區別同窓会を行い、級友や恩師と旧交を温めました。
- ②実行委員のリクエストにより、人気のあった給食メニューを用意し、特にカミカミ豆は大好評でした。
- ③会場には分別用のゴミ袋を用意し、環境保護に配慮しました。
- ④会場準備から当日の後片付けまでを実行委員自ら行いました。また、後片付けでは、実行委員以外の新成人も自主的に手伝っていました。

●20歳の社会貢献～ペットボトルキャップの回収活動～

新成人全員で行う社会貢献として、ペットボトルキャップを回収し、その売却益で世界の子どもにポリオワクチンを贈る活動に取り組みました。当初は800個が目標でしたが、予想をはるかに超える反響があり、最終的にはなんとキャップ11万個(=ポリオワクチン138人分)が集まりました。また、今後は市内のボランティア団体が活動を引き継ぐことになりました。まさに、実行委員会の活動が市民を動かし、市民全体が取り組む運動へと発展したのです。

※取り組みの詳細については、別紙「ペットボトルのキャップを集めて、世界の子どもにワクチンを届けよう!」をご覧ください。

●新成人全員で作上げた成人式～新成人が個性を存分に発揮～

①新成人がパンフレットをデザイン

単なるタイムスケジュールではなく、メッセージカードにしたいとの思いから、誕生と始まりを意味するディビア（クマのぬいぐるみ）の絵を表紙にし、大きさもきれいな形で持ち帰りができるよう「はがきサイズ」にしています。若い感性あふれるオシャレなパンフレットだと大好評でした。

②新成人が巨大看板をデザイン（※①とは別人）

無味乾燥な看板ではなく、新成人デザインによる可愛い看板が新成人を出迎えました。看板を見た新成人は、普通の成人式とは違うと感じてくれたと思います。看板前で記念写真を撮る新成人が大勢いました。

③新成人の作品展示コーナーを設置

新成人の日頃の活動を紹介しようと、受付前に展示コーナーを設置しました。写真、イラスト、詩等10数点の出品があり、出品者自らが飾り付けを行いました。

④ユニークな“大人の階段”

行政の発想では絶対生まれてこない、実行委員が知恵を絞ったからこそ生まれた企画です。

●お父さんお母さんからもお祝いが

新成人を祝福するため、新成人のお父さんが自発的に会場周辺を10数基の門松で飾ってくれました。また、お母さんが作成した、新成人を応援するイラスト入りのポスター10数枚をロビーに掲示しました。

●成人式は生涯学習のスタート～成人式実行委員OB・OGの活動～

実行委員で得た経験を一過性で終わらせるのではなく、生涯学習のスタートにすべく、成人式終了後も実行委員経験者は様々な活動を行っています。

※活動の詳細については、別紙「小野市成人式実行委員OB・OGの活動」をご覧ください。

●まとめ①～世界に一つだけの“手作り成人式”～

①今年度の成人式は、実行委員以外の新成人も多数参加し、例年にも増して、新成人が手作りで創り上げた式となりました。

②実行委員は、限られた時間の中、互いに協力しあい、積極的に活動しました。自らのネットワークを駆使して仲間に協力を呼びかけた結果、例年以上に充実した企画が実現しました。その過程では様々な困難や問題がありましたが、それを乗り越えることにより、実行委員の絆が深まっていったと思います。

③式典では多くの新成人が家族への感謝を語り、新成人の豊かな人間性が感じられました。

④会場の参加者についても、仲間の呼びかけに応じてちゃんと開会前に入場し、式典中もペンライトで勝手に遊ぶ者は一人もいませんでした。仲間がいい成人式にしようとして一生懸命に頑張っていることを感じていたのでしょう。

●まとめ②～成人式から新たなひとづくり・まちづくりの活動へ～

①小野流成人式を創るにあたり、事務局は、明らかに危険なことや無理なことは除き、実行委員の提案に対し、「できません」ではなく、「まずやってみよう」というスタンスで臨んでいます。

②それは、成人式を単なる式典ではなく、市民力育成の場と位置付けているからです。将来を担う若い力を育て、表現の場を与えることに、実行委員形式をとる意味があると思います。

③今年度は、キャップ回収活動や実行委員経験者の活動のように、成人式を超えて、若い力をまちづくりに活かす活動ができました。

④保護者や地域の方が飾り付けやキャップ回収活動等に自発的に協力し、まさに市民参画の成人式でした。

参加した新成人や地域の人々の声など

- ・本当に感動した！（市長）
- ・ファンファーレから最後の合唱まで、企画力にあふれた進行がとても良かった（保護者）
- ・パンフレットがアイデアにあふれ、デザインもオシャレなので、驚いた（保護者）
- ・三女が新成人のため参加したが、一緒に行った長女がビデオレターに感動して泣いていた（保護者）
- ・キャップ回収を地域や学校等に広く呼びかける等、若さの息吹きを感じた（地域住民）
- ・何回か成人式に参加しているが、今までの中で一番の仕上がりが良かった（恩師）
- ・成人式がこんなに楽しいとは思わなかった（新成人）